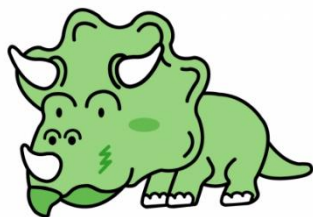


それでも進化論を信じますか？



1、普通に考えて有り得ない。

つまらないミステリー小説の特徴の一つに、「ご都合主義」があります。登場人物の知性や能力ではなく、偶然によって話が進んでいくパターンです。運よく立ち聞きした、ばったりと出会った、たまたま知っていた……そんな展開が続くと、読者は「そんなに都合よくいくわけないでしょ」と突っ込みたくなってきて、話にリアリティを感じなくなります。

実は進化論もまた、究極のご都合主義に彩られた物語なのです。ロボット技術が進み、人間の動きに近いロボットが作られるようになってはきたものの、未だにロボットは足をまっすぐに伸ばして立つことができません。明らかにロボットは人間より劣っており、プログラミングをされなければ何もできません。そのロボットが、ある工場のスクラップ置き場で爆発が起き、その時に様々な部品が偶然組み合わせられて完成した、と言っても誰も信じないでしょう。「そんな偶然、フツーに考えればありえないよ」と思うでしょう。実は、進化論とはそのようなものなのです。偶然宇宙が誕生し、地球は太陽から完璧な位置にとどまり、さらにぐるぐる自転するだけでなく、自転しながら太陽の周りを周回するようになり、生命が存在できる環境が整い、その地球で生命が誕生し、その生命が恐ろしく複雑な動物と植物に分かれ、さらにそれが雌雄に分かれ、完璧な生殖機能が整い……。これらすべての現象を「偶然」の一言で説明するのです。

こんがりと揚がったコロッケと、キャベツの千切りとミニトマトがきれいに盛り付けられた皿は誰かの手によるものであり、冷蔵庫の中身をぶちまけた際にできたものではありません。

100人のオーケストラが奏でるハーモニーは、雑踏のざわめきを録音したものではありません。

美しいグラデーションを描く500色の色鉛筆のセットは、木こりが振るう斧から飛び散った木くずの集合体ではありません。

冷静になって考えてみましょう。スマートフォンが偶然できるわけがありません。それなのに、スマートフォンを作り上げた人間は偶然できたというのです。これはいくら何でも無理がある説明です。

ジョン・ポーキングホーン 物理学者

「宇宙の温度や密度がわずかでもずれていたら、宇宙には星も生物も産まれることはなかった。そしてその温度や密度が今のような経過を辿る確率は天文学的に低いもので、偶然には起こりえない事である」

安藤和子 理学博士

生物の体の大部分は特別の生理機能を持った壊れやすいタンパク質という高分子物質で構成されており、そのタンパク質を構成する基本単位はアミノ酸と総称される20種類の物質である。タンパク質のほとんどは、それぞれに定まった数百以上のアミノ酸が、定められた順序に整然と並んで出来上がっていて、この配列が一つでも狂った場合には全体が崩れるほどの重大な影響が及ぶので、それら一つひとつのタンパク質が偶然に生じることはあり得ないのである。……実際には、タンパク質を造るための材料調達さえ偶然にできることではない。

単細胞であるピロリ菌でさえ、その体は約2000種類ものタンパク質からできている。1種類のタンパク質が偶然できることさえ起こりえないのに、「偶然によって2000種類のタンパク質ができて、それが適切に組み合わせられて一つの細胞ができる」と考える化学進化は、科学的な観察事実と完全に矛盾しているのである。

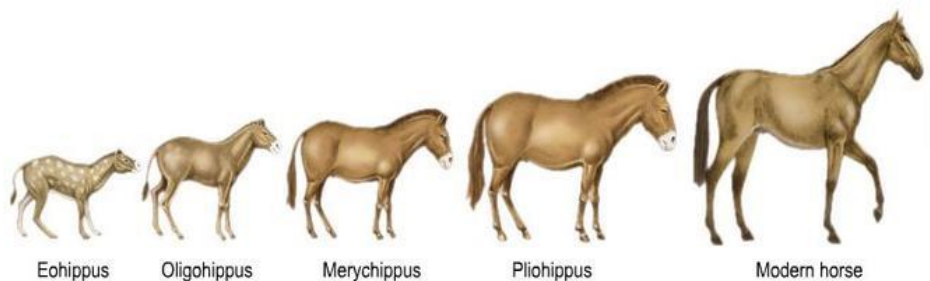
2、証拠がない。

実は、進化論には明確な証拠がありません。さも証拠であるかのように提示されているいくつかのストーリーがあるだけです。

①化石は証拠ではない

現在発見されている化石は、既に絶滅した動物の化石や、現在も存在している動物の化石、もしくは環境に応じて変化した動物の化石にすぎません。ダーウィンの進化論によれば、コウモリはネズミから進化したことになっています。確かにネズミの化石や、コウモリの化石は、たくさん発見されています。しかし、ほんとうにコウモリがネズミから少しずつ進化したのであれば、その中間型の化石がたくさんあるはずですが、しかし、ネズミとコウモリの中間型の化石はひとつも発見されていないのです。他の動物でも同様で、中間型は存在しません。そして、中間型の動物といわれる絵もたくさんありますが、それらはわずかな骨から人間が想像して描いたものや、もしくはまったくの想像から描いたものでしかないのです。

馬の進化の図と呼ばれるものを見たことがあるでしょうか。あれをみると、馬は順調に進化していったように見えます。しかし、あの図は、世界中からいろいろな大きさの馬の骨や、馬に似ている骨をかき集めて、大きさの順に並べたものにすぎません。

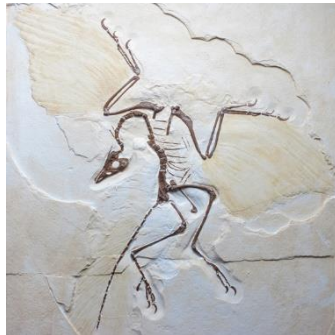


つまり、明確な物証の積み重ねによってではなく、「生物は進化した」という前提のもとに作られたストーリーを表現した図にすぎない、ということになります。

－国立科学博物館 新館展示パネルより－

誰も見たことのない大昔の人々の姿や表情は、どのように復元されるのだろうか。どこまで復元できるのだろうか。長年におよぶ調査で得られた化石や石器という証拠を、解剖学と考古学の知識にもとづき比較研究することによって、身体の特徴や精神活動が推測され、さらに、想像力を加味して復元が完成する。

時には個体の20～30パーセント、もしくは10パーセント程度の化石から復元図が描かれることがあります。それは人間の想像力によるものなのです。始祖鳥の化石も爬虫類から鳥類に進化した中間型の化石として有名ですが、羽の先に爪がついた鳥は現在でも存在しており、決して中間型とは言えません。



この始祖鳥の化石が示すのは、「このような動物がかつて存在していた」という事だけです。

進化論ではこの問題を「ミッシング・リンク (失われた環)」と呼んでいます。つまり、化石という観点から進化論を根拠づけるための決定的な要素が欠けている、という意味です。ダーウィン自身が、この点についてこう述べています。

ダーウィン著「種の起源」より

「かつて存在した中間変種の数は実に膨大であるに違いない。では何ゆえ、あらゆる地質累積やあらゆる地層はこのような中間的連結環で満たされていないであろうか。地質学は、確かにこのような精密に段階づけられた生物の連鎖を現していない。そしてこれはおそらく、この理論に対して主張されるもっとも明白で深刻な反論である。」

彼の意見は至極もっともです。つまり、「彼は飛行機がない時代に、なぜ半日で日本からアメリカまで移動できたのだろうか？」というような疑問です。

②突然変異は進化の証拠となりえるか～進化か、適応か～

進化論を裏付けるために提唱されたのが、突然変異が繰り返されたという説です。もちろん、生物が環境に応じて体を変化させることはありえます。しかしそれは適応と呼ばれるものであり、進化ではありません。アフリカなど、暑い地方に住む人達は、肌が黒くなりました。肌に含まれているメラニンが多くなったのです。また、森の中で狩猟採集を行ってきたピグミーと呼ばれる民族は背が低く、足の指は木登りを容易にする独特な形をしています。しかし、皆同じ人間であり、違う種に変化したわけではありません。

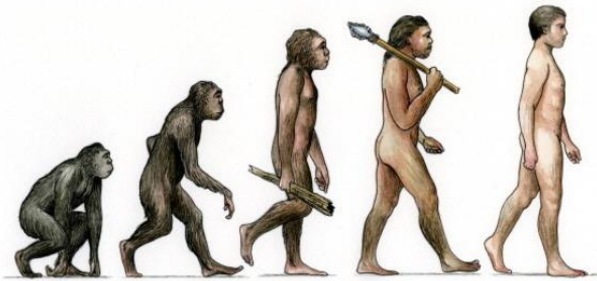
また、アメリカのハドソン川では、汚染された水に適応したタラの一種の存在が報告されています。そのような例は他にもいくつかありますが、

これもまた種を飛び越えて違う生物になったわけではなく、魚は魚のままなのです。

もう一つの説明として考え出されたのが、突然変異によって種が変化してきた、という説です。しかし、突然変異の例はありますが、それらは個体としては生命力が弱く、同じ能力と外見を備えた子孫を残すことはできません。ウマとロバが交配し、ラバが生まれることがあります。しかし、ラバには生殖機能がないため、ラバとラバを交配させることはできないのです。なので、ラバはラバとしての子孫を残すことはできません。進化の証拠として突然変異を持ち出すには無理があるのです。

③原人など存在しない

同様の理由で、人間の進化図も当てになりません。さも事実であるかのように提示されている図も、想像力の産物にすぎません。



過去に発見された「人間の祖先」と呼ばれているものも、実際には以下のとおりでした。

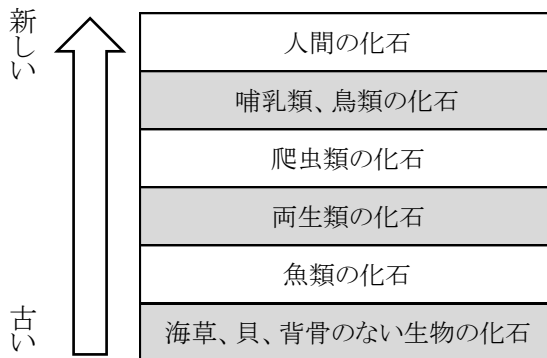
アウストラロピテクス	サルの骨に、人間の膝の骨を混ぜたもの
ジャワ原人	マントヒヒの頭骨と、いくつかの動物の骨を混ぜて偽造したもの
ネアンデルタール人	病気で骨が曲がってしまっている、普通の人間の骨だった
クロマニヨン人	普通の人間。洞窟にすんでいたというだけ

こうなるともはや学説ではなく詐欺と表現した方がいいでしょう。

④地層も証拠とはなりえない

進化論の土台となる検証材料の一つに地層があります。ある化石が掘り出された場合、その化石が「どの年代の地層から出たのか」が重要視され地層の位置によって「この生物はこの年代に存在していた」とされます。大まかには単純な生物ほど下の地層、複雑な生物ほど上の地層に化石が残っているということになっていますが、これも進化論を前提とした理解にすぎず、現実とはだいぶかけ離れているのです。

進化論を前提にすると、化石は以下のような順番で積み重なっているとされています。



しかし、現実はこのようにきれいに積み重なっている地層などどこにも存在していません。複数の年代（進化論の説によると数百万、数千万年）をまたぐように埋まっている化石だってたくさんあるのです。

つまり、これは防犯カメラに映った男女の区別もつかないような荒い画像から犯人を特定する、というような非常に曖昧な推測と言えます。

また、そもそも年代を測定する放射能測定法と、炭素14測定法も正確なものではありません。

④つまり、進化論だって宗教だ

科学的立場からのダーウィン進化論への異議を唱える人達があります。彼らは一つの声明文を出しました。

「われわれは、ランダムな変異と自然選択によって、生命の複雑さを説明することができるという主張を疑問とする。ダーウィン理論の証拠を注意深く吟味してみることが要求される」

この声明文には博士号を持つ人達が名を連ねていますが、その数は90人におよびます。

(以下のURLからダウンロードできます)

<http://www.discovery.org/scripts/viewDB/filesDB>

では、進化論を信じないとすれば、何を信じるのでしょうか。それは、全宇宙と生命を創造した存在（つまり神。ある人はそれをサムシンググレートと呼ぶ）です。進化論に対して、これをID論（インテリジェンス・デザイン論）、創造論など呼びます。

それは宗教とか、信仰という世界のことでありと分類されるでしょう。しかし、進化論を受け入れるなら、それもまた信仰なのです。進化論を実証することは不可能です。誰も生命を作り出すことはできませんし、実験

もできません。過去に起こったことを確認することは困難です。つまり進化論にしても、それを信じるか、信じないかという選択が必要なのです。

多くの科学者は、科学を追求することにより、神の存在を確信するようになりました。ここに何人かの言葉を引用しましょう。

マックス・プランク 「量子論の父」と呼ばれたドイツの物理学者

「この宇宙の秩序と宗教の神を互いに結び付けることを否定させるものは何もない。我々の知識がそれを要求する。神は、信じる者にとっては、出発点であり、物理学者にとっては到着点である」

ロバート・メリカン 物理学者

「私は信仰を否定することはまったく科学的根拠がないことを躊躇することなく宣言する。私の判断によれば、信仰と科学の間に決して矛盾は見つからない」

3、創造論は論理的だ。

上記のように検証してきた結果を逆に考えれば、世界を創造した存在である神がおられることは、自然と理解できます。それはとても論理的で自然な理解であり、人間の思考にマッチするものです。美しいビーチに、砂で形成された見事なお城がある場合、それが波によってではなく、人間の手によってできたものである、とほとんどの人が理解するのと同じです。

つまり、神の存在というものは、実は信心だけではなく、論理によっても明確に実証されるのです。



「この立派なお城、波によって自然にできたものなんです！」

もはやジョークにもなりませんね。

つまり、進化論とは一度神の存在を思考から除外し、神抜きで世界の成り立ちを考えようとし、そのために世界にある様々な現象や物質をその証拠として提示したものです。しかし、生命と自然世界の美、複雑さ、機能性、その力強さは、むしろ創造主である神の存在を証しします。

しかし、人間は神の存在を否定し、自己中心になり、神を抜きにし、全てを自分で決定する人生こそ、理性的であり、幸福な人生であると考えました。聖書はそれが人間の罪であり、神はその罪に対して怒りを現すと語っています。

・ローマ1：28～20

不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたのです。世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。

いつからか、世界は細切れに分けられてしまいました。知性と霊性は同じ土俵で考えるものではなく、論理と信仰はまったく別のものであるとされています。しかし、聖書は知性と霊性、そして論理と信仰は同じものであり、知性によっても論理によっても神を知ることができるかと語ります。人間の存在を論じる必要がないように、本来、神の存在は論じるものすらありません。

別名、ゾンビ症候群と呼ばれる、精神障害の一つであるコタール症候群の人々は「自分は死んでいる」と頑なに主張します。それは彼らの信仰なのです。人間というのは信じたいものだけを信じるのです。

4、進化論を信じるなら人生には意味がない。

進化論に基づいて人生を考えるなら、多くの問いに対して明確な答えを出すことはできません。

「なぜ生きていくの？ その目的をどうやって発見すればいいの？」

「生きている意味なんてないでしょ？ だって元はアメーバなんだから」

「偶然産まれたとするなら、別に人を殺してもいいんじゃないの？」

「だって、猿だって猿を殺すでしょう？」

「死んだらただの物質に戻るんだよね。でも、今からすでにただの物質にすぎないよね。つまんない」

しかし、わたしたちが神によって造られ、神の意志の内に生かされ、神に愛されており、死んだらその魂が神の元へ帰る、と信じているなら、これらの質問に確信をもって答える事ができます。

わたしは神のために生きている。そして、神に愛されている。
わたしの命は神に造られたからこそ、価値があり、意味がある。
人の命は神のものだ。だから、人が簡単に奪ってはならない。
人は神によって魂を与えられている。そして、その魂は死んだら神の元へ
帰る。

聖書は次のような言葉で、神の存在と神の愛について語っています。

・イザヤ46：3～4

あなたたちは生まれた時から負われ、胎を出た時から担われてきた。同
じように、わたしはあなたたちの老いる日まで、白髪になるまで、背負
って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救
い出す。

5、人生には希望がある。

この世界はまるであべこべです。善と悪、希望と絶望、美しさと醜さが
入り混じっています。美しい大自然は時に牙をむき、何万人という人の命
を奪います。人の優しさに感動したかと思えば、人の悪意に傷つき、怒り
を燃やします。多くの命が愛情あふれる親の元に産まれる一方で、多くの
命が暴力によって消え去っていきます。

自分に正直になれば、誰もが自分の中に潜んでいる邪悪さに気づくでしょう。何とか自分の良い部分を発見しようと努力することはできても、それが自分を救ってくれるわけではありません。

聖書は、この世界に存在する悪、絶望、醜さは、人間が神から離れ、罪人となってしまったためであると語っています。

・ローマ3：23

人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっています。

わたしたちの存在そのものが悪であるとするならば、わたしたちはどこに救いを見出せばいいのでしょうか。聖書は、神が用意してくださった救いについて語っています。

・テトス2：11

実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。

・ローマ4：25

イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです。

イエス・キリストは神の子であったにも関わらず、人として地上に来られ、罪人として十字架にかかって死なれました。しかし、キリストは復活なさいました。聖書は、このキリストを信じる者は、誰でも罪が赦されると約束しています。

ダーウィンがかつて大学で神学を学んだこともありましたが、次第に神に対して疑問を持ち、やがて「わたしは不可知論者（人が経験しえないことを問題として扱うことを拒否しようとする立場）だ」と語るようになり

ました。そしてキリスト教信仰と決別し、進化論の元となる論文、「自然選択説」や「種の起源」を発表していきます。

どうかダーウィンのようになるのではなく、今、この瞬間にでも、神の存在と、神の愛を受け入れてください。そして、神が与えてくださった、イエス・キリストの救いを信じてください。

創造論に関しては以下のサイトでより詳しい情報が得られます。

クリエイションリサーチジャパン <http://sozoron.org/>

「それでも進化論を信じますか？」

製 作：2018年 下諏訪キリスト教会

連絡先：0266-27-3862 sc.live.service@gmail.com

<http://shimosuwachurch.net/>